

ガランガオ

毎年ラマダンが始まってから14日目の夜を祝って、子どもたちのお祭り「ガランガオ」が行われます。子ども達はこの日、民族衣装に着飾って、ガランガオの歌を歌いながら、グループになって近所の家々をまわりながら首からぶら下げたバッグにお菓子や、いろいろなナッツ類を入れてもらいます。

ガランガオはアラブ諸国やイスラム教徒に共通の祭りではなく、主に湾岸諸国で見られる行事で、もともとは真珠採取ダウ船が、長い航海の末にお土産を持ち帰ったことに由来すると云われています。年を重ねるごとにこの祭りは大きくなり、今ではカタール人の子どもに混じってたくさんの外国人の子どもも参加するようになっています。

街の大きなショッピングセンターでは、チョコレートやナッツ、クッキーなどが詰まったガランガオ・セットなども売り出しました。

「ガランガオ」の名前の由来は定かではありませんが、もともと湾岸諸国の言葉でバッグの中で、クッキーやナッツなどが互いにぶつかり合って出す音から来たと言われていいます。子ども達が首からぶら下げたバッグの中では、クッキーやナッツがガラガラ音をたて、ドアをノックする音が街中に響きわたります。

カタールの主婦は、この夜に備えて、お菓子やピーナッツ、時にはお小遣いなどを用意し、訪ねてきた子ども達に与えます。

親や家族は、ドラムや楽器を鳴らしながら子どもを囃して、一緒に練り歩きます。子ども達は時々「神様があなたに与えた物を、私にもちょうだい。寛大なあなたがメッカに家を持てますように」とガランガオの歌を繰り返し歌います。

あるカタール人の話によれば、「カタールに住む子ども達はみんな、ラマダン期間中ずっとガランガオを心待ちにしています。」とのことでした。



ガランガオを伝える当地新聞



カタールの子ども達